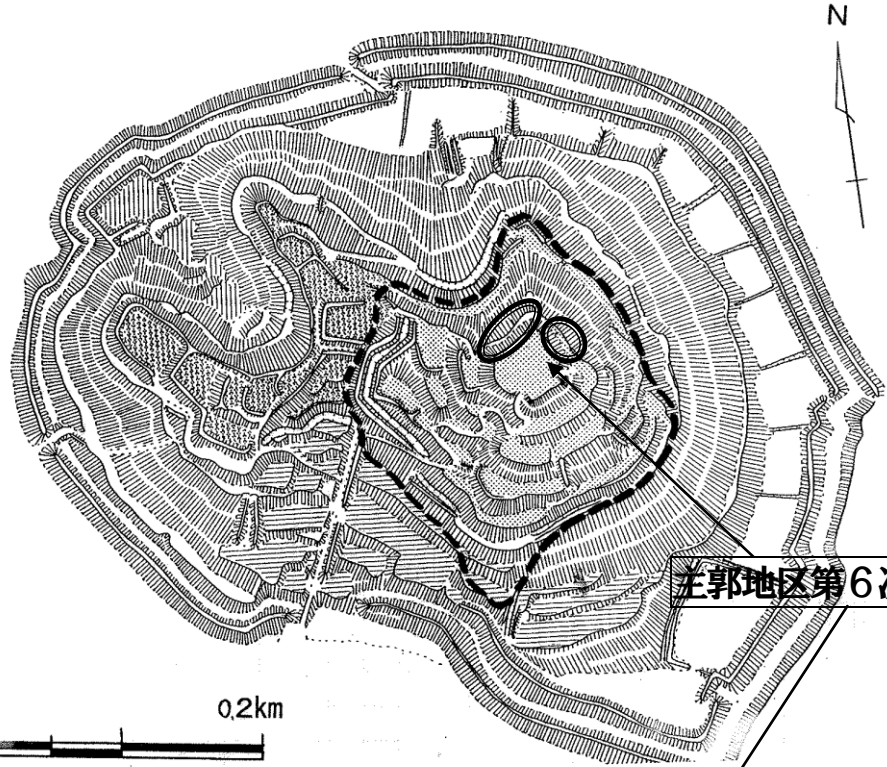


史跡小牧山主郭地区第6次発掘調査 現地説明会 資料

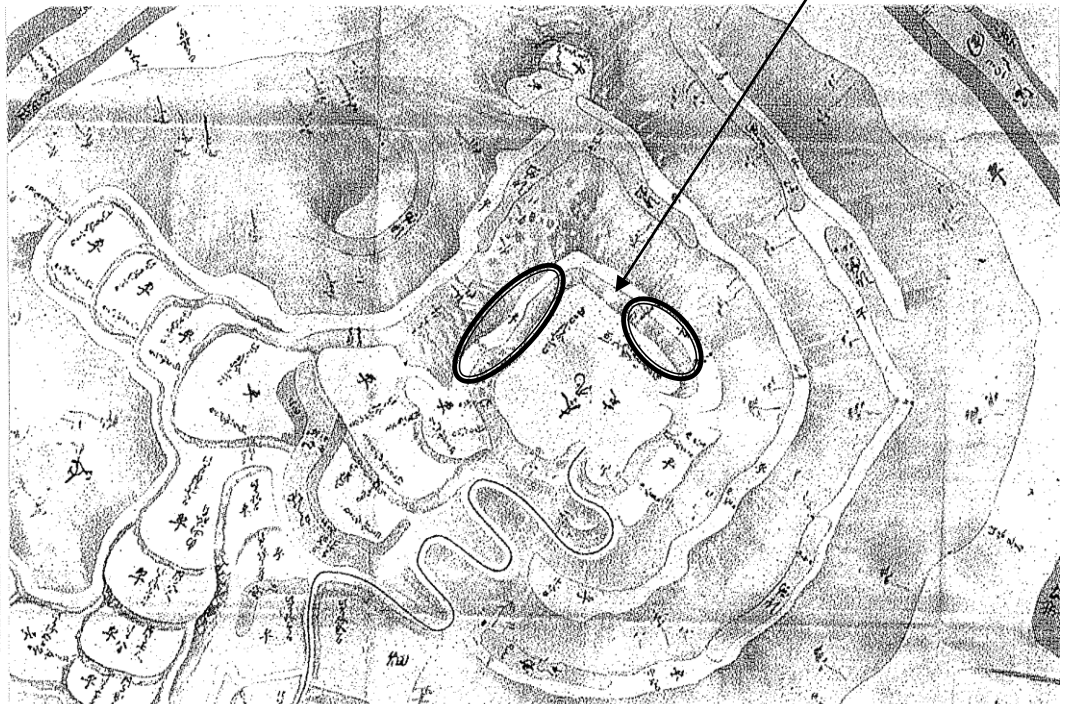
平成26年3月2日(日)

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



主郭地区第6次調査区

春日井郡小牧村古城絵図(部分拡大)
※十七世紀中頃 蓬左文庫蔵



遺 跡 名	こまきやまじょう 小牧山城 (国指定史跡 小牧山)
所 在 地	愛知県小牧市堀の内一丁目地内
調 査 理 由	史跡整備
調 査 面 積	約540㎡ (予定)
調 査 期 間	平成25年11月～平成26年3月 (予定)
調 査 主 体	小牧市教育委員会

1 調査の概要 (何ができてきたのか)

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4カ年の試掘調査と5カ年の発掘調査を経て、今年度が10年目となります。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年(1563)に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています。

今年度の調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

1. 主郭北西斜面 (O・P区、Q区)

主郭(本丸)北西斜面の調査区では、主郭を囲むようにめぐる上下2段の石垣を確認しました。北西部分に台形に張り出した箇所の上段石垣には、特に大きな石材が用いられています。推定される石垣の高さは2.5～3.8mです。

下段の石垣は上段石垣と並行して積まれていました。石材は50cm大のものが中心で、1.2～1.5mの高さと推定されます。

下段石垣の前面で、石柵状の石組を1基確認しました。石組みは石材を遺構面より低く掘り込んでから「コ」字状に設置し、その内部を拳大の丸礫(川原石)で充填しています。

2. 主郭北東斜面 (N区)

主郭(本丸)北東斜面の調査区では、現況地形や古城絵図の検討から、お城の裏口にあたる「搦手虎口」の存在が予想されていました。今回の調査では、出入口に相当する部分は確認できず、1.5m近い現代盛土の下から築城時の面と思われる黒色土層と石垣の裏込石を確認しました。



写真1 北西斜面巨石石垣 (上段)



写真2 石垣 (下段) 前面の石柵状遺構



写真3 安土城主郭石垣前面の暗渠

(『特別史跡安土城跡発掘調査報告10』平成12年 滋賀県教育委員会)

2 まとめ（何が明らかになったのか）

1 主郭北西斜面の石垣の状況が確認できました。

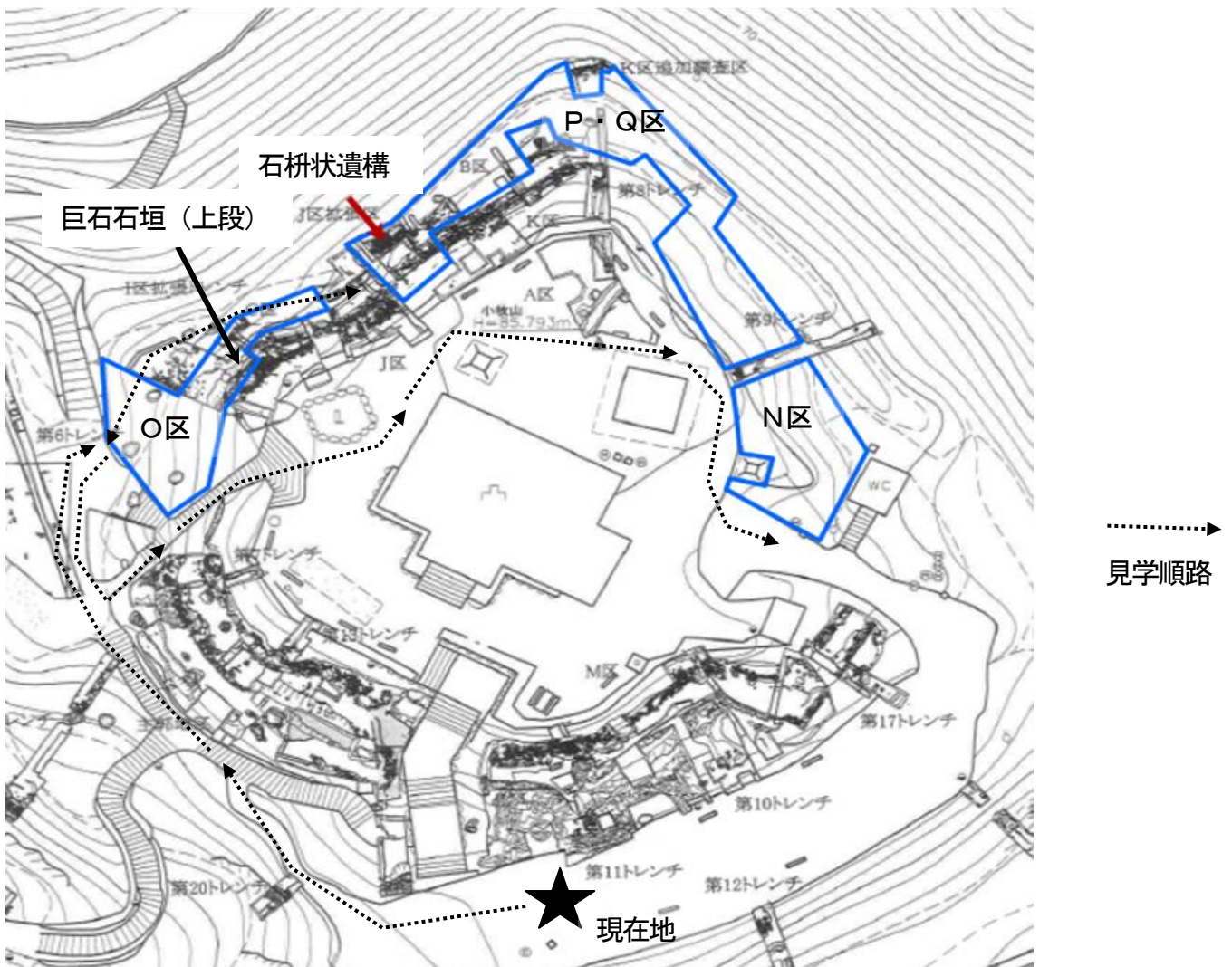
これまでの調査で、主郭を取り囲むように築かれた上下段の石垣を確認し、小牧山城が中世以来の「土の城」とは異なる尾張地方で最初の「石の城」を目指して作られたことが判明しつつあります。今年度の北西斜面調査区では他の調査区と比較して、石垣の平面プランと石材の用い方に特徴があることが明らかとなりました。主郭北西斜面には台形に張り出した部分があり、これは上部に何らかの建物があったことを推測させます。そしてその基礎となる石垣には、他の斜面よりも格段に大きな石材を用い、推定される高さも3.8mと主郭の石垣のうち最も高く積んでいます。小牧山城の北西方向には、この時点での攻略対象である美濃・斎藤氏の稲葉山城（のちの岐阜城）を望むことができます。当時の尾張・美濃両国の緊張関係が城づくりに如実に反映しているといえるでしょう。

2 石組みによる水の処理設備が見つかりました。

北西調査区で見つかった石柵状遺構は、小牧山城では初めての確認例です。この遺構は、石垣前面に流れる雨水などの水を一箇所に集めて地中に流して処理する、一種の「浸透柵」のような機能を果たしていた可能性があります。石垣が崩れないためには水の処理は重要な課題です。信長が初めて築いた城で、あらかじめ石垣の排水処理機能を組み込んでいるということが判明したことは当時の土木技術や信長の築城に対する考え方を知る上で、大きな成果と言えます。

3 「搦手口」のさらなる追求が必要です。

東斜面では今回、搦手口を確認することができませんでした。残る北東斜面のどこかにあるのか、または石垣を開口させることなく、異なる方法で出入口を設けていたのか、今後更なる調査と検討が必要です。



付表1：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年 (1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長15年 (1608)	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか？
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年 (1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始 (第1～4次調査)
20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始 (第1～5次調査)	

付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22 歳	清須城入城	清須城 : 石垣なし	×
永禄 3年 (1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年 (1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城 : 石垣構築	○
永禄 10年 (1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城 (千畳敷) : 巨石石積	改修
天正 4年 (1576)	43 歳	安土城築城開始	安土城 : 総石垣	○
天正 10年 (1582)	49 歳	本能寺の変		

